

1 まとめ・振り返りの時間を確実に確保する。

- ① 毎時間、5～10分間を確保するように心がける。
- ② 「何を学習したか」を明確にする
 - ア 振り返る視点(キーワード)を子どもに示す。
 - イ 自分の言葉でまとめる時間を確保する。
 - ウ 学習した内容を生かす活動場面を設定する。

2 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。

- ① 「ねらい」を明確にする。
 - ア 子どもの学習履歴やつまずきの原因を把握する。
 - イ 単元全体や本時で身に付けさせたい力を明確にする。
 - ウ 本時の「ねらい」が達成された具体的な子どもの姿をイメージする。
 - エ 子どもの問いや思いを引き出し、明確に意識できる「めあて」を設定する。
- ② 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図る。
 - ア 本時で身に付けさせたいことをまとめる。
 - イ 「ねらい」に合った適用問題等に取り組む。
 - ウ 「ねらい」と「まとめ」の観点別評価を合わせる。

3 授業と家庭学習を連動させる。

- ① 授業で学習した内容の定着や活用を図るための家庭学習について指導する。
- ② 授業で「分からなかったこと」や「新しい問い」を家庭学習で調べさせる。
- ③ 家庭学習の内容を授業の導入段階で取り上げる。

4 教師による子どもの居場所づくりを促進する。

- ① 学級や学校をどの子どもにも落ち着ける場所にする。
- ② どの子どもにも分かる授業を展開する。
- ③ 「分からない」の発言が受け入れられる集団づくりを心がける。
- ④ つまづいている子どもの把握とあきらめない支援を心がける。
- ⑤ 全ての子どもが活躍できる場面を実現する。

5 早期発見、早期対応で未然に防止に努める。

- ① 欠席したら夕方に電話連絡、2日続いたら家庭訪問を徹底する。
- ② 不登校及び不登校傾向の児童生徒に対しては、援助チームを組織して援助する。その際、チームの中に必ず保護者を入れるようにする。
- ③ チーム援助にあたっては、「理解シート」、「援助チームシート」を作成し、組織的・計画的に援助にあたる。
- ④ 定期的なアンケート調査などで子どもの状況を把握する。

※各種シートの説明やデータは県教育委員会 HP「不登校資料 Vol.5豊かな学校生活のために」をご覧ください。

6 不登校児童生徒への対応

- ① 各校で作成する「個別の支援計画」をもとに、支援チーム(校長、教頭、生徒指導主事、担任、養護教諭等)に保護者を加え、組織的・継続的に支援する。
- ② 学習支援と学習機会を確実に確保する。
 - ア スペシャルサポートルームを設置しての個別指導
 - イ 家庭訪問における課題添削による学習支援
 - ウ 適応指導教室と連携した学習支援
 - エ オンライン等を使った学習環境の提供(授業ライブ配信等)
 - オ 民間のICT教材の活用(イーボード、すららネット等)
 - カ Web上の支援団体の活用(クラスジャパン等)